

令和5年度 学校経営計画表（通信制）

1 学校の現況

学校番号	22		学校名	県立水戸南高等学校				課程	定時制、通信制			学校長名	平野泰博			
教頭名	郡司 美知子 (定時制・昼間制)			藺部 卓也 (定時制・夜間制)				谷島 賢一 (通信制)			事務室長名	遅塚 朱美				
教職員数	教諭	64	養護教諭	2	常勤講師	5	非常勤講師	20	教諭	1	事務職員	6	技術職員等	15	計	118
生徒数	課程・学科			1年		2年		3年		4年		合計		計		
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	定時制(昼)普通科			29	25	40	38	20	22	4	2	93	87	8		
	定時制(夜)普通科			9	9	6	3	5	3	0	1	20	16	4		
	通信制	普通科	68	110	62	88	43	90	61	78	234	366	24			
		ライデザイン科	12	27	13	21	16	25	—	—	41	73	3			

2 目指す学校像

「生徒一人一人のニーズ・スタイルを尊重し、学校本来の大切さを日々感じる学校」
単位制で作る自分の時間割、生活スタイルで選べる3つの課程、たくさんの教員による手厚い指導体制を生かしたセルフビルドの学習を実現する。 JR水戸駅から徒歩圏内の利便性と、緑に囲まれた閑静な環境を生かして、持続可能な心豊かな学びを実現する。

3 三つの方針

「育成を目指す 資質・能力に関 する方針」 (グラデュエーシ ョン・ポリシー)	(長期的目標) 【本校の通信制課程は、1951年の創立以来、茨城県内唯一の県立通信制課程として、生徒一人一人のニーズや生活スタイルを尊重し、生徒と教員が、「これからの生活に必要なこと」を共に考え、それを実現することが使命であると考えています。】 ○「個別最適化された学び」 様々な背景を持つ一人一人の生徒が、多様な能力・適性、興味・関心に応じた学びを実現できるようにします。 ○一人一人の可能性の開花と、セルフケア力の向上 教員は、“できないのではなく、今はまだ、できていないだけ”という想いから、生徒が本来持っている力を呼び覚まし、自分の可能性や方向性を思い描けるように導きます。 ○「誰かに必要なことはみんなの快適」 個々の生活体験や学びから得られた知を、ユニバーサルデザインの視点に昇華させ、そこから生まれる安心感を、共に学ぶすべての人が共有していきます。 ○世の中の「とくべつ」とされていることは「本校では当たり前」 本校を取り巻くすべての人が、学校本来の大切さを日々実感できる学校でありたいと考えています。良いものを良いと感じられ、当たり前のことを当たり前と思うことのできる人、今は未完成でも、予測不能と言われる社会の中で、学ぶ楽しさを見つけようとする人、「自分の大切さ」と「相手の大切さ」をともに考え、互いを大切にできる人を育てます。
「教育課程の編 成及び実施に関 する方針」	(中期的目標) 【本校では、全体的な効率よりも、一人一人の興味・関心・進路希望による科目選択が優先される“水戸南カリキュラム”を編成します。】 ○「なりたい自分になるための学びの場づくり」

(カリキュラム・ポリシー)	単位制本来の特色を最大限に活かすことを第一に考え、学びの積み重ねによって3年間での卒業が十分できるよう、多様な教科科目、個別対応も含んだ発展的学習を可能にします。 ○「間違える、わからない、質問する」が「当たり前」 「まだ、できないだけ」を教員が意識し、それぞれの学びの世界に導き、刺激し、能力を引き出すことで、生徒がクリエイティブに「何か」を見つけて、より深く学ぼうとする意識を高めていきます。 ○誰もが必要とする基礎・基本の学びの導入 義務教育の9年間では、誰もが苦手とを感じる分野を持っています。本校では、高校での学びへの移行をスムーズにできるようにしています。また、スクーリング・レポート・考査の3つの柱に加え、ICTを活用することによってスクーリングの効果を高め、レポートの助けになるような教材を発信するようにします。
「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 【本校は、「これから」の気持ちを応援する学校として、「今、学びたい」という気持ちを尊重し、学び続けていくことの楽しさを習得する意欲をもった生徒の受入れを行います。】 ○居住地や生活スタイルに合わせた通学方法で学びをサポートします。 通信制において、月2回のスクーリングは、日曜コース、火曜コースを設定しています。また、下妻コース(日曜日実施)を選択することもできます。 ○「学びに対する好奇心」をもつ生徒を受け入れます。 レポートの作成やスクーリングを通して、“自分にはできない”とあきらめず、これまで困難を乗り越えてきたことも自信に変え、何度でも立ち上がれる人になることを目指します。学びの中で、世界の成り立ちを知ることの喜びに気付くとともに、自分にプラスをもたらす人との出会いを通して、自分の強みを知り、高校時代に第一歩を踏み出してもらいたいと考えます。 ○「学びをセルフプロデュースできる生徒」を育てます。 進学や就職で、さまざまな進路希望を持つ生徒が共存するのが水戸南高の特色です。外見を校則でしばられない自由さの中で、自立・自律の能力を磨くことを目指し、自分の目標と今の自分がどう違っているかを見て、自分で修正できる力を身に付けていきましょう。

4 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項 目	現 状 分 析	課 題
進路指導 キャリア教育	・進学や就職等、明確な進路目標を持って学校生活を送る生徒は少数である。 ・社会的な状況により、生徒の希望進路の実現は更に難しくなっている。	・進路選択における生徒の主体性の育成と教員の適切な支援 ・社会情勢に対応した個別の進路情報提供機会の充実
学習指導	・生徒の入学目的が多様で、学習に対する姿勢も様々である。 ・不登校経験の生徒など、コミュニケーション能力や社会性が低い生徒も多い。	・生徒一人一人に対応した学習支援による単位取得率の向上 (R 1 58.3%、R 2 67.4%、R 3 61.4% R 4 58.3%) ・生徒のコミュニケーション能力や社会性の育成
生徒指導	・活動生において問題行動を起こす生徒はほとんどいないが、不活動生による問題行動に関する問い合わせがある。	・きめ細やかな生徒情報の収集
特別活動	・集団活動が苦手な生徒、他者とのコミュニケーションが苦手な生徒が多い。 ・有職生徒は、仕事の都合で学校行事に参加できない場合がある。	・ウィズコロナを意識した学校行事の計画立案 ・生徒のコミュニケーション能力や社会性の育成
教職員	・レポート添削やスクーリングなどにより、丁寧な指導をしている。 ・本館全教室に電子黒板が設置され、ICT環境が整った。	・ICT機器を活用したスクーリングの取り組みの推進 ・生徒のスクーリング評価等を取り入れた授業改善の推進
広報活動	・県立高校唯一の通信制設置校として、地域や中学校、高等学校へ認知されている。	・地域や中学校、高等学校へ、通信制教育への理解を深めていただくための広報活動の活性化
働き方改革	・勤務時間規定超過の職員はいない。 ・ICT機器を活用し、職員会議のペーパーレス化が進んだ。	・働き方改革を推し進めるため、ICT機器を利用した打合せ等、校務運営の効率化

5 中期的目標

- 1 文化やスポーツの能力を伸長する生徒、働きながら学ぶ生徒にも対応できる、単位制や三課程の特色を生かした普通科教育の場として、中学校卒業の生徒が進路先として選ぶ高校であることを定着させる。
- 2 交通至便な立地にある静かな学びの場で、小中学校で不登校を経験した生徒などが落ち着いて学習できる環境を提供するとともに、再学習や中途入学の高校として、一人一人の目標実現に寄与する。
- 3 髪型や服装への制約のストレスがなく、生徒が自分自身と向き合う場として、学校本来の大切さを感じられるオーソドックスな高校であることを中学校や社会に周知する。
- 4 教職員一人一人が働き方改革に取り組み、自らの授業・スクーリングを磨くとともに、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や想像力を高め、生徒に対して効果的な教育活動を行う。

6 本年度の重点目標(通信制)

重点項目	重点目標
・学習指導のさらなる充実	・自己管理能力を育み、自学自習の習慣を身に付けさせるような、丁寧で的確な添削指導を行う。 ・スクーリングにおけるICT機器の活用を推進する。 ・生徒の単位認定に至るまでの学習活動におけるICT化の可能性について検討を進る。
・生徒の社会性の向上	・多様な学校行事を企画し、多くの生徒の参加を促す。このことを通して、個々の生徒の持つ特性を活性化させるとともに、他の生徒との交流を深めさせることにより、社会性を育成する。 ・外部機関が主催する行事や大会、ボランティア活動への参加を促し、コミュニケーション能力の育成を図る。
・保護者、家庭との連携強化	・月1回発行する「南通信」を通して、通信制課程の教育活動や学習の取り組み方法を周知する。 ・「学校ホームページ」「メール配信」などで、随時情報発信を行い保護者、家庭との連携を強化する。
・教職員の資質向上 (授業改善への取り組み)	・全国及び関東地区の通信制教育研究会の研修会への参加を促し、通信制教育の意義や各校の指導方法を学ぶ。 ・「生徒による授業評価」の観点のひとつである授業満足度に係る評定平均値について、中間評価2.6以上、最終評価2.8以上を目指す。
・学校運営の効率化 (働き方改革)	・教育情報ネットワークのclassroom等を利用し、会議等を効率的に行うなど、働き方改革を進める。 ・利便性の高い統一フォーマットを作成し、業務の見直しや改善を図る。 ・PDCAサイクルを確立し、教員業務の見直しと業務改善の推進を図る。
・広報活動のさらなる充実 (地域との連携強化)	・ホームページやメール等の情報発信機能を充実させ、県立高校通信制としての教育活動を広く地域に周知する。 ・中学校、高等学校を訪問して情報提供を積極的に行い、「学びのセーフティーネット」としての役割を周知する。 ・就業者など地域の方々にも広く周知し、学業継続を希望する生徒を広く受け入れる。